

峰岡地区福祉座談会 まとめ①

開催日：令和4年12月19日(月)19:00～20:30
参加者15名 スタッフ8名 計23名

【当日の流れ】

1. 開会挨拶...峰岡地区コミュニティ協議会長 上原 様
2. 趣旨説明...西蒲区社会福祉協議会 事務局長 諸原
3. 座談会(グループワーク)
4. 地域の支え合いについて...巻圏域支えあいのしくみづくり推進員 阿部 様
5. まとめ...西蒲区支えあいのしくみづくり推進員 塩澤 様
6. 閉会挨拶...西蒲区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員長 大橋 様



【これまでの経緯】

令和4年9月9日(金) 19:00～ 座談会に向けての検討会を実施
コミ協6名 民生児童委員2名 支えあいのしくみづくり推進員2名 西蒲区社協2名

【座談会のテーマ】

「防災をポイントにした支え合える関係づくりと情報共有について」



【座談会(グループワーク)発表内容】

【1・2グループ】

○平時からの取り組み

- ・顔はわかる 若い人たちの連絡先もわかる
- ・**自主防災連絡会**を結成 合同で訓練等も行っている
- ・「祭り」などの伝統行事を役員だけでなく全世帯で継承
- ・今日の話し合いを地域に伝えていく

○自治会長と民生委員の関係

- ・高齢者名簿は主が民生委員、自治会長は補助的な役割と捉えている
- ・自治会長と民生委員は活動が重複しているが、同じ町内でも十分に掴みきれていない

○心配な人

- ・手を上げている人はいいが、上げていないのに手助けが必要な人はどうするか?
- ・心配して行ったのに「何しに来たんだ!？」と言われる人もいる コミュニケーションが取りづらい
- ・最初から弱者と決めてかかるのもいかなものか

○課題

- ・近所でも顔がわからない ・若い人は無関心
- ・集まりに出てくる人が固定化
- ・出てこない人に限って文句をいう
- ・防災訓練やっても名簿は出さない
- ・個人情報保護がネックになっている
- ・引越して行っても、来てもあいさつなし
- ・団地も高齢化に ・高齢者ばかりで助け合えない
- ・次の世代が育たない ・消防団のなり手がいない
- ・老人クラブもなくなり、若い世代の集まりもない

【3・4・5グループ】

○コミュニケーション

- ・配付物は「困りごとがあれば相談してね」と声をかけながら配る

○情報共有

- ・**近所づきあい**から、その家庭の状況を把握する
- ・民生委員と自治会長で弱者の方の情報を共有する
- ・自主防災会とのコミュニケーションが重要
- ・敬老会の確認票で介護必要などの情報を得た
- ・災害弱者の情報をもう少し広く共有したい

○災害を想定しての訓練

- ・**誰がその方を支援するか**決める
- ・一時避難場所の周知 ・リヤカーの準備
- ・**平日と土日祝の動き**をそれぞれ考える

○課題

- ・ひきこもり



峰岡地区福祉座談会 まとめ②

【座談会(グループワーク)発表内容】

【6グループ】

- 見守り
 - ・援助を求める家に**旗などの合図**をだしてもらおう
- 情報共有
 - ・老人会もないので情報が入らない
 - ・**自分たちで役に立つ情報を集める**
 - ・どこに誰がいて何が必要なのかを知る
- 地域での活動
 - ・**地域内で連絡の仕組み**がうまくできるとよい
 - ・弱者と近所の人や自治会が協力して「喜ばれること」から絆を作る
 - ・自治会内で災害や避難の良い例を学ぶ(映像学習)
 - ・隣同士での日頃からの声かけが重要
- 具体的な取り組み
 - ・高齢者や一人暮らしの除雪をやっている
 - ・**集落で要援護者名簿を作って、そこに2人くらいの支援者を貼り付けている 集落全体で共有している**



【1・2グループ】



【3・4・5グループ】



【6グループ】



【全体のまとめ】

大雪の影響で当初予定していた参加者の半分程度になってしまったが、3つのグループよりそれぞれ盛んに意見交換がなされた。

自治会の規模により、情報共有やコミュニケーションの取り方など温度(気持ち)は同じでも、成果に差が出てしまう。

それでも平時からの取り組みとして「**防災訓練**」や「**近所づきあい**」などをキーワードに、さりげない見守りや繋がりから、お互いを知る工夫をしている意見もあった。

また、すでにできている取り組み事例に①**高齢者・一人暮らし世帯の除雪**、②**自分たちで要援護者名簿を作って、そこに支援者を貼り付けている**など、完成度の高い地区もある。

最後に塩澤支え合いのしくみづくり推進員より①「**優先して取り組むこと**」をしっかりと決めて、②**高齢者ばかりになっても、お互いに出来ることは助け合って**、③**安心してこの地域で暮らしていくために、みんなで考えていかなければならない**。

地域での話し合いは、もっと**若い人**を入れて、来年も再来年もずっと続けていってほしいと総括していただいた。